

平成24年度 全国学力・学習状況調査結果について

平成25年3月
長野市教育委員会

1 趣 旨

平成24年度全国学力・学習状況調査が平成24年4月17日に実施されました。本市の児童生徒の学力や学習習慣、生活習慣等に関わる状況について調査結果の概要を取りまとめました。

本市では、調査結果をもとに教師の指導改善や学校の教育課程改善を図ることで、児童生徒への基礎学力の保障を図ることを第一と考えており、調査結果の数値は、指導した教師が自己の指導を振り返るためと、児童生徒一人一人が学習改善につなげるために活用しております。

また、本年度の結果は、抽出された学校の結果をまとめたものであるため、本調査の概要については、全国や長野県の結果との比較については行わず、文章表現で教科における課題を中心に公表することとしました。

なお本市では、児童生徒にどのような学力が定着し、どのような課題があるのかを把握し、「基礎学力の保障」を図るため、長野市小中学校基礎学力調査事業を推進しております。

2 調査対象学年、調査問題、実施学校数、児童生徒数及び調査実施日

	対象学年等	調査問題	長野市の状況		実施日
			抽出校／全学校	実施児童生徒数／対象児童生徒数	
小学校	小学校 第6学年	国語A・B、算数A・B 理科 児童質問紙	15校／56校	1134人／3568人	平成24年 4月17日(火)
	学 校	学校質問紙	15校／56校		平成24年4月17日 までに実施
中学校	中学校 第3学年	国語A・B、数学A・B 理科 生徒質問紙	6校／25校	496人／3432人	平成24年 4月17日(火)
	学 校	学校質問紙	6校／25校		平成24年4月17日 までに実施

※抽出校以外の学校は、希望利用とし、各学校の実態に合わせて全国学力・学習状況調査の問題を活用しました。

3 調査実施内容

小学校6年 中学校3年	<教科に関する調査> 主として「知識」に関する問題を中心とした出題 (国語A、算数・数学A) 主として「活用」に関する問題を中心とした出題 (国語B、算数・数学B) 主として「知識」に関する問題と主として「活用」に 関する問題を一体的に出題 (理科)	学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する質問紙調査
学 校	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査	

4 留意事項

- (1) 教科に関する調査については、調査科目が、国語、算数・数学、理科の3教科であることと、学習指導要領に示された身につけるべき学力の全体を網羅しているわけではないことから、児童生

徒が身につけるべき学力の一部であるということに留意する必要があります。また、質問紙調査については、質問項目に関する児童生徒や学校の実態の傾向を示したものであり、改善に向けては個々への対応が大事であることに留意する必要があります。

- (2) 文部科学省のホームページに「平成 24 年度全国学力・学習状況調査の結果について」として、調査結果の概要や報告書が掲載されていますので、参考にしてください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/1324343.htm

5 調査結果から明らかになったこと

(1) 児童生徒の学力に関する調査結果 (問題別の概要)

長野市の児童生徒が、今回出題されている問題について、どのような力が定着していてどのような課題があるのかを把握するために、以下の観点で調査問題及び学年別に概要をまとめました。

<○定着が見られるよい点 ●課題が見られる点>

【小学校6年生】

学 力 の 状 況 (出題の趣旨より)	
国語 A	○日常生活で使われている慣用句の意味を正しく理解する。 ○漢字を筆順に従って正しく書く。 ●目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書く。
国語 B	○資料を読み取った上で、質問をしたい内容を明確にして発表する。 ○編集者の意図を説明したものと適切なものを選択する。 ●目的に応じ、雑誌や読んだ記事の特徴を捉える。
算数 A	○小数の減法の計算をする。 ○加法と乗法の混合した整数の計算をする。 ●数の相対的な大きさについて理解する。 ●面積についての感覚を身につける。 ●三角形の底辺と高さの関係について理解する。 ●四角形の内角の和について理解する。
算数 B	○必要な情報を用いて指定された高さにすることができるかどうか判断し、その理由を記述する。 ○長方形に内接するひし形の面積の求め方を理解する。 ●表から比例の関係を捉え、二つの数量の変化の仕方に対応する式を選択する。 ●表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述する。
理科	○物は、水に溶けても重さは変わらないことを氷砂糖に適應できる。 ○物は、水に溶けると液全体に広がることを、梅ジュースに適應できる。 ○植物の受粉と結実の関係について、科学的な言葉や概念を理解している。 ○植物の受粉と結実の関係を調べる実験について、結果を基に方法を改善して、その理由を記述できる。 ○光電池や乾電池の働きを強くするための要因を理解している。 ●虫眼鏡の適切な操作方法を身に付けている。 ●水は、温度によって状態が変化する性質を、物を動かす「エネルギーの見方」として適用できる。

【中学校3年生】

<p>国語 A</p>	<p>○自分の話を聞き手に理解してもらえるように、資料を用いて話す。 ○手紙の形式を理解して書く。 ○話し言葉と書き言葉との違いを理解し、適切に使う。 ○文脈に即して漢字を正しく書く、読む。 ○はがきの書き方を理解して書く。 ○ローマ字で表記された作品名を読み、ひらがなと漢字で正しく書く。 ○漢字の音読みと訓読みについて理解する。 ●比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解する。 ●抽象的な概念を表す語句について理解する。</p>
<p>国語 B</p>	<p>○効果的に伝わるように、内容や表現の仕方を工夫して書く。 ○物語の場面の展開を捉える。 ○物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、自分の考えを書く。</p>
<p>数学 A</p>	<p>○正の数と負の数を用いて日常的な事象を処理することができる。 ○簡単な比例式を書くことができる。 ○扇形の面積がその中心角の大きさに比例することを理解している。 ○比例定数の意味を理解している。 ○座標平面上に円の位置を示すことができる。 ○二元一次方程式の解とグラフの関係を理解している。 ○相対度数の必要性和意味を理解している。 ○資料を整理した図から最頻値を読み取ることができる。 ●前の試行が次の試行に影響しない場面において、「同様に確からしい」ことの意味を理解している。</p>
<p>数学 B</p>	<p>○総度数の意味に基づいてヒストグラムから必要な情報を適切に選択することができる。 ○資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 ○「木の高さの求め方」を事象に即して解釈することができる。 ○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。</p>
<p>理科</p>	<p>○花のつくりを考える場面で、花のつくりの共通点や規則性に関する知識を活用して、アブラナの花のつくりを表している模式図を指摘することができる。 ○「花が開くには温度が関係している」という考察を導くために、実験結果を分析し解釈して、比較する実験結果の組合せを指摘することができる。 ○実験結果を分析し、豆電球と発光ダイオードの消費する電力を比較することができる。 ○「いくらでも食塩水を濃くできるわけではない」という他者からの指摘を分析し解釈して、他者の考えの根拠を説明することができる。 ○水溶液においては、溶質が均一に分散していることを粒子のモデルと関連付けて理解している。</p>

(2) 質問紙調査結果

① 児童生徒質問紙調査の結果

小学校 6年	<p>○「今住んでいる地域の行事に参加している」や「学級の友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めている」と答えた児童の割合が全国と比べて高く、主体的、積極的に活動していることがうかがえます。</p> <p>●「年上や年下の友達と一緒に遊んだり、勉強したりすることがある」と答えた児童の割合が低く、異年齢との関わりを大切に学習や活動を工夫していく必要があります。</p>
中学校 3年	<p>○「家で学校の宿題をしている」「家で学校の授業の復習をしている」「自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた生徒の割合が、全国と比べて高く、自主的な家庭学習の習慣がついてきています。</p> <p>●小学校6年生を同様の結果となっています。</p>

② 学校質問紙調査の結果

小学校	<p>○「児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めている」と答えた学校が多く、子どもが主体的に学ぶ授業を心がけて指導しています。</p> <p>○国語、算数、理科の授業において「インターネットを活用した授業を行った」と答えた学校の割合が全国に比べて高く、授業改善に対する教職員の意識が高くなっています。</p> <p>○理科の授業において、「実生活における事象との関連を図った授業や、仮説をもとに観察、実験、体験を大切に、考察する授業を行っている」と答えた学校の割合が高くなっています。</p> <p>●「保育園や幼稚園、中学校との連携を行っている」と答えた学校の割合が低く、今後の幼保小または小中の連携のあり方について検討していく必要があります。</p> <p>●「校長が授業を見て回っている」と答えた学校の割合が、全国と比べてかなり低く、各学校で向上を図る取組が求められます。</p>
中学校	<p>○すべての抽出校で「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けており、読書を教育の大切な柱の一つに位置付けています。</p> <p>○「生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」や「学習方法（ノートの取り方、テストの間違いを振り返った学習など）の指導をしている」、「生徒に対して、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導している」と答えた学校が多く、生徒主体の授業や学び方を身に付ける指導を積極的に行っています。</p> <p>●「ボランティア等による授業サポートを行っている学校」や「博物館や科学館、図書館を利用した授業を行っている学校」が少なく、今後のあり方について検討していく必要があります。</p>